

令和5年度 上荘小学校学校評価 学校教育目標「自ら学び 心豊かで たくましい上荘っ子」

Aよくできた:4点 Bどちらかというときできた:3点 Cどちらかというときできなかった:2点 Dできなかった:1点 として評価

実践目標		実践事項	項目別評価	総合評価	分析と改善の方策		
1	自ら学ぶ力と一人一人の確かな学力を育成	基礎基本の定着と思考力・判断力の育成	朝の学習の時間を確保し、漢字・計算練習等による基礎学習の定着を図る。 学習課題にしっかりと向き合い、自分の考えを持たせる。	3.6 3.3	B (3.4)	・基礎基本については、十分に時間を取り、力をつけさせることができた。 ・学習端末は、授業や家庭学習、連絡帳等で十分に活用し、有効に使用できている。 ・読書活動推進のために委員会活動で全校の読書月間を設定し、子どもたち自らが啓発的に活動し、図書館利用を活性化させる。 ・一人一授業の授業公開を行い、協同的探究学習を取り入れた授業改善を続ける。	
		言語活動の充実と豊かな表現力の育成	多様な表現方法を取り入れた授業づくりに取り組む。 体験したことを整理して、それを言葉で表すなどの活動を取り入れる。	3.3 3.3			
		協同的探究学習を核とした学習指導の充実	話型、場の設定など、話し合い活動を充実させる。 「わかる学力」習得への転換を図り、子どもたちが生き生きと学べるようにする。	3.4 3.3			
		GIGAスクール構想のもと、ICTを活用した学習活動の充実	学習端末を効果的に活用させている。 情報モラルを理解させ、けじめをつけて学習端末を使わせている。	3.5 3.4			
		図書館教育の充実と本に親しむ態度・習慣の育成	本に親しみ、本を学習に活用できるよう指導する。 図書が普段から整理され、図書室で貸し借りの処理ができています。	3.2 3.6			
2	豊かな人間性と確かな実践力を育む道徳・人権教育の充実	基本的生活習慣の確立	「上荘っ子のやくそく」にそって、各学級で継続して指導する。 主に名札の脱着、校舎内での過ごし方・持ち物の指導を徹底する。	3.5 3.3	B (3.4)	・道徳や人権教育については、時間をしっかりと確保して、学級経営にも生かしながら取り組めた。 ・教育相談を定期的に行い、子どもや保護者の思いに寄り添いながら対応できている。また、常に職員間での共有を図り、関係機関と連携をとっている。 ・いじめの未然防止と早期発見、対応に引き続き取り組む。 ・子ども自らが主体的に取り組む行事や児童会活動を計画的に行う。	
		「特別の教科道徳」を要とした心に響く道徳授業と道徳性の育成	道徳の授業時間を確保し、道徳年間カリキュラムをもとに内容項目が抜け落ちないように指導する。 道徳の時間に、発問や資料の使い方の工夫をする。 道徳的価値について理解し、日々の生活と結びつけて道徳性を育成する。	3.4 3.2 3.4			
		自他の命や人権を尊び、自己肯定感を育む人権教育の充実	子どものがんばりや努力を認め合える集団作りに取り組む。 日記指導等を通して、個々の良さや成長など児童の内面理解に努める。	3.6 3.2			
		「学校いじめ防止基本方針」に基づいた命を大切に教育の推進	教育相談やアセスの見とりを学級経営に生かす。 日々の学校生活のあらゆる場面において、いじめの未然防止・早期発見・早期対応に努める。	3.5 3.3			
		一人一人が生かされる学級経営と特別活動の推進	子どもたちがお互いに認め合える、充実した学級経営に努める。 学級活動や児童会活動、委員会やクラブ活動に子どもたちが主体的に取り組む。	3.4 3.5			
		各教科・領域におけるキャリア教育の推進	発達段階に応じたキャリア教育に取り組み、地域や保護者と連携した体験活動を推進する。	3.2			
3	たくましい心身の育成と健康・安全教育の推進	運動の日常化を図り、自ら運動に取り組む児童の育成	体を動かす楽しさや心地よさを味わわせ、自主的に運動をしようとする児童を育成する。 体づくり運動を中心に、すべての領域をバランス良く指導する。	3.4 3.4	B (3.3)	・朝の駆け足、運動会、マラソン大会など体育的な取り組みを計画的に行い、改善しながら進めている。 ・食育では、給食で量の加減をしたり、好き嫌いや食物の栄養を指導したりしている。また、委員会活動で全校集会や校内放送を通して児童自らの発信で食育の啓発を行う。	
		危機管理能力を高める安全指導の徹底	防災・安全計画をもとに、機会を捉えて安全指導を行う。 事故発生事例をもとにして、具体的に指導する。	3.4 3.2			
		食育の充実と自己健康管理能力の育成	食べ物あのおね・食育だよりをもとに、食の大切さについて指導する。 感染症対策を理解し、毎日の健康チェックに取り組む。	3.1 3.5			
4	特別支援教育の充実	特別の支援や配慮を要する一人一人の教育的ニーズに応じた支援	要支援児童の実態を把握し、個別指導などで適切に支援する。 職員間で共通理解し、要支援児童に積極的に関わる。	3.5 3.7	B (3.4)	・子どもらは障害の有無にかかわらず、同じように接していこうとする優しさをもっている。今後も正しい認識を培っていく。(養護学校との交流を継続)	
		特別支援教育への理解と啓発	特別支援教育について、児童・保護者へ啓発を進める。	3.1			
5	地域とともにある学校づくりの推進	地域の実態や特色に応じた教育活動の推進	総合・生活科等で地域の特色や実態を取り入れた学習を推進する。	3.4	B (3.4)	・引き続き地域教材を重視し、学校支援ボランティアを積極的に活用していく。体験活動を取り入れることにより子どもたちがより生き生き、のびのびと充実した活動・学習に取り組めた。 ・業務改善を進めたことにより、超過勤務の改善につながっている。 ・学校と保護者、地域が連携を密にして閉校と周年行事、みらい学園への準備にあたることができた。	
		保護者や地域から信頼される職員集団	計画的に学校を公開し、保護者や地域からの声に耳を傾けて対応する。 教職員自らが自己研鑽に励み、働き方改革の意識をもって業務に取り組む。	3.3 3.5			
		学校・家庭・地域の連携・協働と、地域総がかりで取り組む教育の推進	学校・家庭・地域の3者が連携した教育を進める。	3.4			
		学校運営協議会を設置し、学校運営に必要な支援に関する協議の実施	地域の課題や両荘みらい学園のことについて連携し、取組を進める。	3.3			

総合評価について 4～3.5:A 3.4～3:B 2.9～2.5:C 2.4～:D ()内は各項目の平均値

職員自由記述

・授業改善への取り組みは引き続き行っていく。
・両荘みらい学園においても業務改善を進め、働きやすい職場づくりを積極的に行う。
・地域を大切にしたい体験活動を重視し、上荘と平荘の良さを十分に生かしていく。
日々の教育活動に加え、周年と閉校に関わる行事や作業も多い中、教職員がみんなで支え合い助け合いながら、チーム上荘として取り組みを進めてこられたことが大変よかったと思います。すべての児童について、全教職員で見守る体制ができているのも上荘小のよさですが、上荘小閉校と両荘みらい学園開校に向け、これまで以上に子どもや保護者の思いに寄り添い、さらに児童理解を深めながら、子どもたちが安心して学校生活を送れるようにしていかなければならないと思っています。